

しあわせ研究所のさらなる発展を

研究所長 西本 照真



本学は、建学の精神である仏教の「生きとし生けるものが幸せであるために」という願いに導かれ、2016年4月に新しいブランドステートメント「世界の幸せをカタチにする。」を宣言し、新ブランド具現化の第一歩として Musashino University Creating Happiness Incubation（武蔵野大学しあわせ研究所）を同年7月に開設しました。卵を温めふ化させていくように、生きとし生けるものの幸せを心から願い温めながらカタチにしていきたいとの思いから Incubation としました。設立から9年、今では教職員、学内外の258名を超える方々が研究員としてご参加いただいています。

主な取り組みを振り返ると、毎年、しあわせ研究費を交付してきましたが、交付の総数は197件にのぼります。研究成果の発表の場として Happiness Meeting（9回）、しあわせ研究所シンポジウム（9回）、しあわせ研究所国際シンポジウム（3回）、shiwase シンポジウム（ウィーク）（慶應義塾大学大学院SDM研究科ウェルビーイングリサーチラボとの共催6回）、しあわせ研究所紀要（7号）、しあわせ研究所叢書（①～②）などを通じて、実りある研究成果の発信がなされてきました。

また2022年度以降、さらなる豊かな人生の門出を祝う会として古稀式を毎年秋に開催し、活動の幅も広がりを見せています。

褒賞活動としては、日々の生活の中で実際に幸せをカタチにした学生や教職員に贈られる Creating Happiness 賞(23件)や SDGs の取り組みに対して贈られる SDGs Award(29件)など、本学らしいユニークな活動もなされています。

このような実に多様で広範な活動の紹介をタイムリーに皆様にお届けしたいとの願いを込めて、2017年12月に「武蔵野大学 しあわせ研究所通信 Vol.1」を発行しましたが、7年余りの歳月を重ね今回で144号を迎えています。

2024年度は創立100周年を祝い多彩な記念事業が実施されました。2025年度は新たな100年に向かってスタートの年となり、開学以来はじめての女性の学長として小西聖子新学長が就任される予定です。しあわせ研究所の活動も新学長のもとでますます活性化し、「世界の幸せをカタチにする。」取り組みが一層進展していくことを念じています。

3月末での学長退任にともない、所長についても交代となりますが、これまで多くの皆様が熱い思いを寄せてしあわせ研究所の活動をお支えくださったことに心から感謝と御礼を申し上げ、退任のご挨拶といたします。

長い間、ありがとうございました。